

Professor's Scoop



「“キリン博士”・郡司芽久先生に聞く、キリンの体に隠された知られざる秘密」をWebメディア「LINK@TOYO」にて公開中です。



LINK@TOYO 検索

学問の領域は広く、深く、日々進化しています。

本学の教育・研究を担う教員の目に、世界はどのように映るのか。

「好きなことを仕事にする」。簡単なようで難しいこのテーマをとことん追求するのも研究者の一つの形かもしれません。

幼少期から大好きだった「キリン」を専門に研究されている生命科学部の郡司芽久先生に、

実際に「好きが仕事」になる生き方や考え方について伺いました。

生命科学部生命科学科 助教

Profile

生命科学部生命科学科助教。幼少期から動物が好きで、東京大学大学院農学生命科学研究科の修士課程・博士課程にて特に大好きなキリンの研究を行い、27歳で念願のキリン博士となる。日本学術振興会特別研究員PDとして国立科学博物館での勤務などを経て、2021年4月より現職。専門は解剖学・形態学。哺乳類・鳥類を対象として「首」の構造や機能の進化について研究している。キリンには他の哺乳類にない「8番目の首の骨」があることを発見。第七回日本学術振興会育志賞を受賞。著書に『キリン解剖記』（ナツメ社）など。

郡司 芽久

1 解剖し「知る」ことで、 今生きる動物にバトンを。

私は子どもの頃から動物が大好きで、中でもキリンが好きでした。はっきりとした記憶はありませんが、両親が言うには頭が大きい、首が長い、鼻が長い、などユニークな見た目の動物が好きだったそうです。大学院時代からキリンの研究を始め、この10年間で30頭ほど解剖し、主に首の構造などを研究しています。

私たち研究者は動物園などで寿命を全うした、または病によって死んでしまった動物を献体していただき解剖を行います。脚や首などパーツごとに分け、筋肉や骨の構造、可動の仕方を記録します。残酷だと感じる人もいるでしょう。ですが、献体を受ける動物だけではなく、その動物たちを大事に育てた飼育員さんたちの「役に立ててほしい」という想いも大切に受けとめて、責任を持って解剖を行っています。

例えば、大型動物は脚を悪くすると死んでしまいます。野生の世界では蹄が自然と削れるのですが、動物園ではそうはいかず、歩き方が変わってしまうことで怪我に繋がることもあります。そうして亡くなった動物の状態を詳細まで調べることが、今生きている動物の怪我の予見や動物園の中でより健康で長生きするような工夫を施すことに繋がります。何もしなければ朽ちてしまう命から、「何かを残す」お手伝いができればと考えています。

2 好きなことに関わる仕事は たくさんある。

もともと私は獣医になりたいと考えていました。しかし高校生の時、獣医は時に動物を殺す選択をしなくてはいけない場面があることを知りました。動物の命を生かそうと手を尽くすことと、天寿を全うさせるため手を差し伸べないこと。どちらが正しいという話ではありません。私はどちらを選んだとしても、それでよかったという自信は持てないと思い、獣医の道を諦めました。しかし動物に関わりたいという想いは強くあり、大学時代に「キリンの研究がやりたい」とたくさんの人たちに声をかけたところ、解剖学ならキリンの研究を続けられるのではと考え、研究者への道を歩み始めました。

学生のみなさんにはぜひ、「好きなこと」の周りにはどんな仕事があるのか探してみたいと思います。私は、動物園には飼育員という仕事しかないと思っていました。しかし、関わっていくうちに広報の存在や、展示物や広告を園内で内製するためにデザイナーを雇っている動物園があることも知りました。「動物に関わる仕事＝理系」といったイメージはありませんか？ 固定観念が先行すると将来の可能性も狭くなります。世の中の出来事はたくさんの方が関わって完成しているので、思いがけない分野から「好きなこと」に繋がることもたくさんあるのです。

3 同じくらい辛いことなら 好きな方が良いでしょう。

仕事をする以上、何であれ辛いことは必ず起こるものです。全く辛い仕事はおそらくないでしょう。私の場合は同じように辛いことが起きるのであれば、好きなことをやっている方が耐えられると思いました。キリンの研究を続けるほど、さらにキリンのことが好きになっています。好きなものに触れ、日々新たな発見に喜びを感じています。そして、分野は違っても同じように「好き」を突き詰めた多くの研究者たちが私の周りにはいて、とても居心地良く感じます。同じような意志を持った人が集まりやすいのも、好きを仕事にするメリットかもしれません。

よく「好きなことだけやって生きていけるのか」と聞かれます。しかし「安定した生活」とはなんでしょう。誰もが知る憧れの有名企業に入社しても3年で辞める友人もいました。今回、コロナの影響でさまざまな企業が大きな赤字を抱えました。何が起るかわからない今の時代、就職先だけで一生安定するとはいえません。しかし、好きなことは極めればそれが誰かにすぐ必要とされる可能性がある。これまでになかったような仕事を生み出すことだってできるかもしれない。好きという気持ちを原動力に、自分にしかできないものを見方や発想を身につけることで、実は「安定」に近づけるのではないのでしょうか。

4 「好きなこと」を軸に 自分にとって大切なものを探す。

「やりたいことが見つからない」「好きなことがわからない」と学生から相談されることがあります。思春期から大人になるにつれて「自分はこれが好きだ!」と公言することは気恥ずかしくなると思います。しかしそうやって感情に蓋をしているうちに、心の動き自体が鈍くなるものです。好きな音楽や本…、身近なことでテンションが上がる瞬間は必ずあるはず。自分はこれが好きだと思える瞬間を自覚することを大切に、心の動きにアンテナを張ることから始めてほしいと思います。

私は好きなことが仕事になりましたが、誰もが「好きを仕事にする」必要はありません。大事なことは「どうやって生きていきたいか」を大切に将来を考えること。「キリンの専門家になる」と「完全週休2日制の会社に入って、休日には欠かさず動物園に行く」というのは同じくらい素敵な生き方だと思います。将来を考える上で「好きなこと」という軸を設けて判断してみてください。「趣味で好きなことができればいい」「これこそ天職なのか」… そのように好きなことを中心に考え方を広げていくことで、思いもよらない関わり方をする仕事が見つかったり、同じような趣味嗜好の人がどんな生き方をしているのかを知るきっかけにもなると思います。